

◎決算の概要 介護保険(介護勘定)

■収入

科 目	決算額(千円)	介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額(円)
介護保険収入	241,162	92,047
繰入金	20,490	7,821
雑収入	8	3
合計	261,660	99,870

■支出

科 目	決算額(千円)	介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額(円)
介護納付金	254,487	97,132
合計	254,487	97,132

収入支出差引額	7,173千円
---------	---------

第150回組合会 平成29年度決算関連承認以外の議案、 報告事項について

以下議案についても可決されました。

●あん摩マッサージ指圧、はり・きゅう療養費 支払方式の件

平成31年1月以降、受領委任制度導入にあたり、当健保組合としては、従来通り償還払いを選択することが承認された。

●理事長専決 報告・承認の件

- ①組合規約変更の件(3事業所の所在地変更)
- ②平成29年度予算の款項目間の流用の件
- ③検査及び監査規程別紙様式改訂の件

【報告事項】

理事会議案報告事項

- 互選議員選挙 選挙長、投票管理者選任の件
- 平成30年度財産運用の方針に基づく預貯金の運用の方針の件

その他報告事項

- 第2期特定健診・特定保健指導実施状況と、第3期の目標について
- 第2期データヘルス計画について
- ジェネリック医薬品利用促進通知効果について
- 医療費通知Web化について
- 受診勧奨通知について

◆Web版医療費通知を 平成30年7月より 開始しました。

医療費通知のほか、ジェネリック医薬品のお知らせも閲覧できます。詳しくは、ホームページトップ画面のWeb版医療費通知をご覧ください。

◆特定健診の 受診率 40歳以上の加入者の皆さんが年に1度必ず受診する特定健診の受診率は以下の通りとなりました。今年も、必ず健診を受けましょう。

○特定健康診査実績

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
被保険者受診率	82%	82%	80%	81%	86%
被扶養者受診率	45%	48%	49%	49%	54%
全 体	70%	71%	70%	71%	76%

◎決算の概要 健康保険(一般勘定)

■収入

科 目	決算額(千円)
健康保険収入	2,716,063
〔保険料〕	2,715,434
〔国庫負担金収入〕	629
調整保険料収入	53,859
繰入金	22,384
国庫補助金収入	1,110
財政調整事業交付金	14,982
雑収入	12,289
合計(A)	2,820,687
経常収入合計(C)	2,751,122

■支出

科 目	決算額(千円)
事務費	85,226
保険給付費	1,115,269
〔法定給付費〕	1,068,467
〔付加給付費〕	46,802
納付金	1,266,679
〔前期高齢者納付金〕	539,697
〔後期高齢者支援金〕	685,761
〔退職者給付拠出金〕	41,212
〔老人保健拠出金・他〕	9
保健事業費	103,716
財政調整事業拠出金	53,627
連合会費	987
積立金	2,730
その他	11
合計(B)	2,628,245
経常支出合計(D)	2,574,618

収入支出差引額(A)-(B)	192,442千円
経常収入支出差引額(C)-(D)	176,504千円

■平成29年度決算のお知らせ

保険給付費は減少する一方、納付金が増加して 決算黒字幅が縮小、厳しさが続く健保財政

当健保組合の平成29年度決算が、7月25日(水)に開催された第150回組合会において可決・承認されましたので、その概要をお知らせいたします。

●健保組合を取り巻く状況

健康保険組合連合会が発表した「平成30年度健保組合予算早期集計結果」によると、平成30年度の全国の健保組合全体の経常収支は1,381億円の赤字が見込まれています。

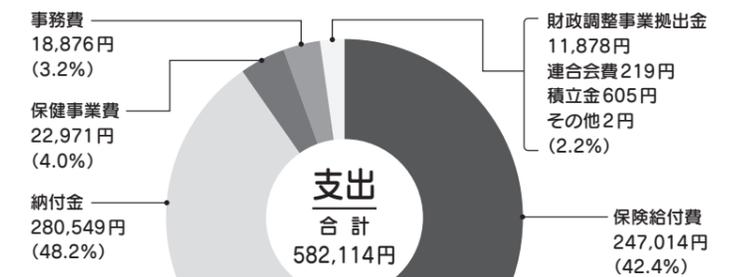
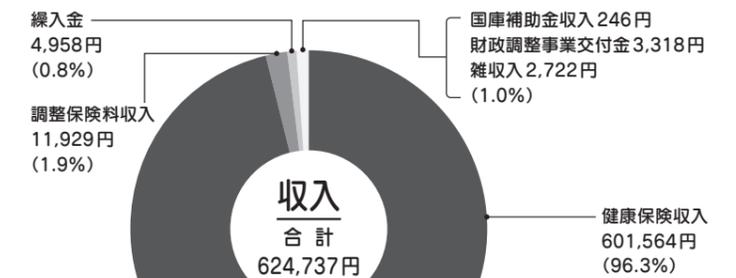
平成29年度予算に比べると健保組合全体の経常収支赤字額は1,643億円の減となりましたが、赤字の組合は866組合で全体の6割超、高齢者医療への支援金・納付金は前年度比41.8億円減の3兆4,925億円となっております。

国民皆保険制度を維持していくために、健康保険組合連合会では、高齢者医療費の負担構造改革をはじめとして、医療費適正化や、データヘルス計画の推進を主張しています。

●健康保険(一般勘定)

収入の大部分を占める保険料は、前年度比1,689万円減の27億1,543万円となりました。支出は保険給付費が前年度比9,857万円減の11億1,527万円、高齢者医療への納付金が前年度比2億5,194万円増の12億6,668万円となりました。納付金が増えた理由は、前期高齢者納付金では団塊の世代の高齢化に加えて、過年度調整分が追徴になったこと

◎被保険者1人当たりの収支の割合【健康保険(一般勘定)】



と、後期高齢者支援金では総報酬割に移行したことが影響しています。納付金の負担が健保組合財政に重くのしかかっています。

収入支出差引額は1億9,244万円、実質的な財政状況である経常収支では1億7,650万円の黒字となりました。

29年度は黒字決算となりましたが、平成30年度は、料率を千分の3引き上げたものの収支不足の予算となっております。

ます。これからは保険給付費や納付金は増大すると予測され、健保組合財政は厳しい状況が続きます。

●介護保険(介護勘定)

介護保険料による収入は2億4,116万円、一方、国に納める介護納付金は2億5,449万円で収入不足となつたため、準備金より2,049万円を繰り入れて収支のバランスを取りました。残金は介護準備金に積み立てます。